

◆万博カラーの赤と青に注目◆

企画展「堺の技と美 工芸を彩るレッド&ブルー」を開催します

堺市博物館では、大阪・関西万博の開催に合わせ、企画展「堺の技と美 工芸を彩るレッド&ブルー」を開催します。人々はいにしえから現在に至るまで、様々な知識と技術、多大な労力、そしてユニークなアイデアによって人工物を着色し、多彩に色を表現しました。本展では、生命の根源を表し、大阪・関西万博のイメージカラーでもある赤と青の2色に注目し、その中でも特に工芸品を取り上げて展示します。

1 企画展名

堺の技と美 工芸を彩るレッド&ブルー

2 会期等

令和 7 年 5 月 20 日（火）～7 月 13 日（日）

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 15 分（入館は午後 4 時 30 分まで）

休館日：月曜日

3 会場

堺市博物館展示場（堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 大仙公園内）

交通：JR 阪和線「百舌鳥」駅下車 西へ約 500m

南海バス「堺市博物館前」停留所下車 南へ約 280m

4 観覧料

一般 200 円（160 円） / 高校・大学生 100 円（70 円） / 小・中学生 50 円（30 円）

※（ ）内は 20 人以上の団体料金

※堺市在住・在学の小・中学生は無料。堺市在住の 65 歳以上の方、障害のある方は無料（要証明書）

5 展示構成・主な展示資料

第 1 章 エネルギーの赤、マジカルな赤

日本では赤系の彩色には、ベンガラ・辰砂（朱）・鉛丹（丹）を顔料、茜・紅花・蘇芳を染料として用いました。人々はより鮮やかな赤を求め、南蛮貿易の時代にはコチニールなどの色材が、幕末・明治時代には化学合成された赤が輸入されました。本章では、古代から近現代までの資料をもとに、様々な赤を展示します。

資料名	制作時期	所蔵者
【重文】漆塗太鼓形酒筒	室町時代（1493）	当館蔵
【重美】南蛮屏風	江戸時代	当館蔵
メノウ勾玉（反正天皇陵古墳出土）	古墳時代	堺市文化財課蔵
湊焼海老形向付	江戸時代～明治時代	当館蔵
与謝野晶子歌集『太陽と薔薇』	大正 10 年（1921）	さかい利晶の杜蔵

※【重文】＝重要文化財、【重美】＝重要美術品

※詳細は別紙をご覧ください。

第 2 章 あいまいな青、憧れの青

青色を人工的に表わすことは容易ではありませんでした。古代・中世の日本の人々は青い器に憧れ、遠く海外から入手しました。日本で青磁や染付の焼きもの、青いガラスなどの生産が可能になったのは江戸時代以降のことです。本章では、歴史のなかで人々が追い求めてきた青を展示します。

資料名	制作時期	所蔵者
【重美】袈裟襴文銅鐸（浜寺昭和町出土）	弥生時代	当館蔵
【府指定】袈裟襴文銅鐸（堺市下田遺跡出土）	弥生時代	大阪府教育委員会蔵
青磁碗（田園遺跡出土）	南宋時代	堺市文化財課蔵
青花花鳥文盤	明時代	当館蔵
【市指定】世界図屏風	江戸時代	個人蔵
唐人物図更紗	江戸時代～明治時代	当館蔵

※【重美】＝重要美術品、【府指定】＝大阪府指定有形文化財、【市指定】＝堺市指定有形文化財

※詳細は別紙をご覧ください。

6 関連行事

<事前申込必要・応募者多数の場合は抽選>

○講演会

日時	①令和 7 年 5 月 24 日（土） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 ②令和 7 年 6 月 8 日（日） 午後 1 時 30 分～午後 3 時
会場	堺市博物館 地階ホール
定員	80 名
参加費	無料
内容	①テーマ「珠洲焼の産地を襲った震災－珠洲焼の歴史と能登半島の現状－」 講師：寺口学氏（能登町教育委員会） ②テーマ「人類史における「色彩」をめぐる－縄文時代の赤・埴輪の青を中心に－」 講師：谷口陽子氏（筑波大学教授）

○トークセッション

日時	①令和 7 年 6 月 28 日（土） 午後 2 時～午後 4 時
	②令和 7 年 7 月 12 日（土） 午後 1 時 30 分～午後 3 時
会場	堺市博物館 地階ホール
定員	80 名
参加費	無料
内容	①テーマ「探検家×神職が語る赤と青の彩り」 講師：田中彰氏（湊谷探検家）・南坊城光興氏（道明寺天満宮宮司） ②テーマ「堺のふとん太鼓－百舌鳥八幡宮月見祭を中心に－」 講師：大熊和彦氏（百舌鳥赤畑町）・柴原博一氏（百舌鳥梅町）・藤木博則氏（土塔町）

<事前申込必要・先着順>

○ワークショップ①「須恵器作り体験」

日時	令和 7 年 5 月 25 日（日） 午前 10 時 30 分～正午
	午後 1 時～午後 2 時 30 分
	午後 3 時～午後 4 時 30 分
会場	堺市博物館 地階ホール
定員	各回 20 名
対象	小学 4 年生以上（保護者同伴の場合は小学 3 年生以下でも可）
参加費	3,000 円（粘土代・焼成費 ※送付希望の方は別途送料が必要）
講師	西念秋夫氏（西念陶器研究所所長）、日本最古の窯業地「すえむら」の会

申込方法：詳細は以下の堺市博物館のホームページをご覧ください。

URL:https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/exhibition/kikaku_tokubetsu/redandblue.html

<事前申込不要・先着順>

○ワークショップ②「カラフル書道体験－色紙に好きな字を書こう－」

日時	令和 7 年 6 月 22 日（日） 午後 1 時 30 分～午後 4 時（随時）
会場	堺市博物館展示場
定員	100 名
参加費	要観覧料
講師	当館学芸員

○展示品解説「色々な赤と青を見てみよう！」

日時	令和7年6月7日（土） 午後2時～午後2時30分 令和7年7月6日（日） 午後2時～午後2時30分
会場	堺市博物館展示場
参加費	要観覧料
講師	当館学芸員

○陶器まつり－能登半島復興支援－

日時	令和7年5月24日（土） 午前9時30分～午後5時 令和7年5月25日（日） 午前9時30分～午後4時
会場	堺市博物館玄関前の広場
内容	珠洲焼と泉州を中心に活動する陶芸作家の作品を展示・販売します。（荒天中止） （主催：日本最古の窯業地「すえむら」の会 協力：堺市博物館） ※中止する場合は、以下の堺市ホームページでお知らせします。 https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/play/event/tokimatsuri.html

問 い 合 わ せ 先	担 当 課：文化観光局 歴史遺産活用部 博物館 学芸課 電 話：072-245-6201 ファックス：072-245-6263
----------------------------	---

【重要文化財】

漆塗太鼓形酒筒（うるしぬり たいこがた さけづつ）

室町時代・文明5年（1493） 当館蔵



ユニークな形をした酒筒。

木を削って細工をしたのが「四良次良（しろうじろう）」、漆を塗ったのが「次良五良（しろうごろう）」ということが胴部に彫られた銘文からわかります。

時を経てなお鮮やかな漆の朱色に、職人たちの魂を感じることができる逸品です。

湊焼海老形向付（みなとやき えびがた むこうづけ）

長浜屋吉兵衛作 江戸時代末期～明治時代（19世紀） 当館蔵



赤い伊勢エビをかたどった食器であり、おめでたい時に使われたものでしょう。

湊焼とは、現在の堺市の西湊町・東湊町（かつての湊村）のあたりで焼かれた陶器の総称。

江戸時代の初め頃、京都から楽焼（らくやき）の陶工たちが移住し、作陶を始めたといわれます。

青花花鳥文盤（せいか かちょうもん ばん）

明時代末期（16～17 世紀） 当館蔵



白地に青で絵付けをした磁器「青花」は、中国で生まれ、海を渡って日本にもたらされました。本作は、青が鮮やかに発色した上質の大皿。本作と似た器が、堺の 17 世紀初頭の遺跡から出土しています。

唐人物図更紗（とうじんぶつず さらさ）

江戸時代末期～明治時代（19 世紀） 当館蔵



インド製の更紗に真似て、多色染めされた日本製の布を和更紗（わさらさ）と呼びます。

「堺更紗」という言葉もあるように、かつて堺は和更紗の製作・販売をおこなっていたと考えられています。

この和更紗は、ふとん地に用いられたものと思われる、まわりの模様を濃い赤で、中央の人物と犬を軽やかな青で染めています。